

～目次～

【1】TKK活動

【2】関連団体の活動

【3】行政等の活動

【4】特集:この1年の活動を振り返って(TKK 加盟団体)

- ① 高次脳機能障がい者の家族の集い「りんく」
- ② 中学生～大学生の高次脳機能障害当事者と家族の会「ハイリハジュニア」
- ③ (株)言語生活サポートセンター
- ④ NPO 法人 VIVID(ヴィヴィ)

-----∞
【1】TKK活動

* *

-----∞
2016 年度 <実践的アプローチ講習会(全3回)> :東京慈恵会医科大学 西新橋校 大学1号館3階講堂

2013年度以来ご好評頂いております本講習会を、2016年も開催いたします。高次脳機能障害のある方々やご家族のニーズは様々です。よって必要な支援も多岐に渡ります。各分野の専門家を講師にお迎えして、支援に携わる方々に即！！役立つよう、実践的で充実した内容でお届けします。

○3回一括申し込み受付期間は終了しましたが、各回の申し込み受け付けが始まっています。

○5月29日・9月11日・12月11日、各回とも定員(250名)に達し次第締め切らせていただきます。

過去満員にて開催されていますので、お申し込み期間中に、早目にお申し込みください。

お申込み方法: 詳細は下記案内サイト参照、メールでお申し込みください。

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=158

2016 年度 <医療及び家族相談会>

○第1回 6月26日 東京都心身障害者福祉センター ○第2回 7月31日 東京慈恵会医科大学附属第三病院

○第3回10月16日 東京都心身障害者福祉センター ○第4回11月22日 東京慈恵会医科大学附属第三病院

○第5回 1月22日 東京都心身障害者福祉センター ○第6回 3月26日 東京慈恵会医科大学附属第三病院

すべて日曜日開催、時間はいずれも 13:30～16:30、各回とも相談件数 4 件以内、費用無料、どの会も医師及び TKK 役員が相談員を務めます。

お申込み: http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=162

なお、第 1、3、5回の相談会会場、**東京都心身障害者福祉センター**は本年3月、下記に移転しました。

東京都心身障害者福祉センター

新住所:東京都新宿区神楽河岸 1-1 東京都飯田橋庁舎(セントラルプラザ)12～15階

TEL : 03-3235-2946 FAX : 03-3235-2968 地域支援課高次脳機能障害支援担当 (13 階)

(JR 飯田橋駅、地下鉄都営大江戸線、東京メトロ東西線、いずれも飯田橋駅下車、地下通路直結)

○TKK 理事会、総会、6 月 19 日(日)開催予定(時間、会場未定)

【2】関連団体の活動

* *

○日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会 2016 in 東京 (6月11、12日)

参加費一般 2,000 円、障害のある人及び介助者一人各 1,000 円、学生 1,000 円

会場: 東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂(M&Dタワー2F) 東京都文京区湯島 1-5-45

(JR中央線・総武線・東京メトロ丸の内線「お茶の水駅」徒歩 3 分)

11 日(土)12:50~18:15(開場・受付 12:15~)

- ・基調報告(大会長:長谷川幹氏)、教育講演、高次脳機能障害者~学ぶ、知らなかったことから学ぶ、他
- ・懇親会(150名、18:40~20:30) 参加費: ¥5,000

12 日(日)9:15~15:15(開場・受付 8:40~)

- ・さまざまな活動から学ぶ(ポスター発表)・・・ポスター発表演題募集中(5月7日締切)
- ・スポーツを通して社会参加を学ぶ ・障害者差別解消法を学ぶ

参加申込み: ホームページ <http://caring-jp.com/> お問い合わせ: 03-5787-6110(中島・向山)

○第2回 平成28年度 東京総合高次脳機能障害研究会

主催: 東京総合高次脳機能障害研究会、東京慈恵会医科大学 本館2階 中央講堂

内容: 高次脳機能障害の基礎と応用、医療から地域へ

8月6日(土)10:00~18:00 (基礎編 午前2講座、午後5講座)

8月7日(日)10:00~16:30 (応用編 午前2講座、午後3事例の検討会)

各講座のテーマ、各講師についての詳細は、及び参加費・申込方法の詳細は

http://www.jikei-reha.com/?page_id=3692 をご参照下さい。

対象: 講座内容は医療・行政・福祉の専門家向け (当事者やご家族もどうぞ)

【3】行政等の活動

* *

●東京都高次脳機能障害者相談支援体制連携調整委員会-今年度2回目、2月24日(水)夜、都心障センター
今年度の高次脳機能障害支援普及事業の実施状況および平成28年度実施予定事業の説明がされた。

●台東区主催 高次脳機能障害 講演会 3月9日(土) 午後、台東保健所3階 大会議室
講演: 「診断からリハビリテーションまで」 原貴敏氏(慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座)
相談会: 講演後開催。

====この講演会開催に先だって、台東区の保健所から、家族会を立ち上げるにはどうしたら良いか?の相談がTKKにありましたので、集客のためと理解促進のために基礎的な高次脳機能障害の講演会と、区在住の当事者やご家族を把握することが重要なので相談会を開催するようアドバイスしていました。この方法は「あたり」でした。原先生講演後の相談会では、医療の立場で原先生、行政の立場で都心障高次脳機能障害担当員、家族の立場では私が、壇上で参加者の方々の熱心な相談に応じました。これまでになく今回は予想を越えた参加者数で会場は満席になり、活発な質問や相談が寄せられました。当事者もご家族も相談の機会を欲していたようです。今まで掴めていなかった当事者やご家族の困っている実態や数、台東区は見えてきたと思います。====細見 みゑ

●中野区高次脳機能障害理解促進セミナー 3月13日(日)午後、スマイルなかの

「生活の中にリハビリをとりいれよう」橋本弦太郎氏(慈恵会医科大学付属病院リハビリテーション科助手)
他に、脳機能アップ運動、質疑応答あり

====内容は①高次脳機能障害の説明では「脳機能を最外側系、中間側系、最内側系」と階層に分けて捉え、障害の程度を見ていく、というお話ははじめての経験でした。当然 内側は重い症状となる。②リハビリを行うには入院、自宅にこもる等によって体力の低下が一番の問題。自分の体力を知り、定期的に、目標を立て、自分に合った方法、他人と楽しみながらおこなう等が大切である。③自立の前に自律(自分を律する、他人の力を求める)することを目指す。④自宅で簡単に出来る運動(馬体操=足で馬の文字を書く事で下肢の強化になる、ボール運び=注意分散の練習になる等)を参加者が実際に行ないました。以上簡単にまとめましたが、やはり自分の状態がある程度分かる方には理解でき、有効としましたが私の場合は本人には自律すら無理なのでその点を置き換えてやらねばと改めて思った次第です。==== 高橋

●葛飾区地域支援センター／高次脳機能障害者 家族会 かつしか 共催 講演会

3月19日(土)午前、かつしかシンホニーヒルズ別館

「高次脳機能障害者とともに歩むために」 高田耕太郎氏(区東部地域リハビリセンター長・医師)

====高田先生の講演では 当事者が日常の生活をより良く送るためのリハビリを伺いました。当事者からの「高次脳機能はいつ治るんですか？」の質問に答えは何えなかったのですが、目頭が熱くなりました。なお昨年からは当地区 葛飾区 足立区 荒川区 三区の東京都東部地域リハビリテーション支援センターは、足立区にあるいずみ記念病院に移りました。==== 山寄

○港区高次脳機能障害理解促進事業 (港区よりTKKへの委託事業)

高次脳機能障害「相談会」、毎月第3木曜日 午後、港区立障害保健福祉センター6階(ヒューマンプラザ)

申込先: 港区障害者福祉課精神障害者担当(TEL:03-3578-2457)

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=161

一般区民向け「講演会」年1回、専門家・支援者向け「研修会」年2回、等については、現在内容企画中!

-----∞
【4】特集:この1年の活動を振り返って

ここではTKK加盟の26団体のうち3団体ずつ、順次ご紹介してきました。今回掲載の4団体で一巡終了します。多くの多様な活動が地域に根付いて、高次脳機能障害当事者・家族が暮らしやすい社会づくりの一端を担っている各団体の存在感を、読者の皆様にお知らせすることができたと思います。ご協力ありがとうございました。

(vol.25, vol.26, vol.27, vol.28, vol.29, vol.30, vol.31の掲載団体はHPでご覧いただけます)

メルマガバックナンバー: <http://www.brain-tkk.com/tkk/index.php>

-----∞
高次脳機能障がい者の家族の集い「りんく」 代表:蔵方律子

ある日突然家族が事故や病気で脳を損傷し、大変な状況になってしまったけれど、それが縁でつながったメンバ

ーが集まって、「まずは家族が元気であること」を大切にしようと「高次脳機能障がい者の家族の集い りんく」と名付け、2013年3月に立ち上げました。当事者と家族同士の繋がりと支援者である医療・福祉・行政の連携を願い、それをIT用語の link に準えて「りんく」としました。

当事者との関係(親子・夫婦等)や受傷原因、住まいには関係なく、普段思っていることを話題にできる「家族同士だから話せる場」として、毎月1回、公民館などをお借りして集まっています。

講習会のお知らせなどの他、時間を共有しお互いに話を聞き合う中で、それまで見過ごしていたことに気がついたり、新しい価値観を見つけられる場となっているようです。

また、当障がいのリハビリテーション専門のドクターも加わってくださるので、症状やお薬についてのアドバイス、そして家族の健康に役立つ専門知識をご提供くださり、家族の元気にもご協力くださっています。

それに加えて、メンバーの今までのご経歴や社会経験に基づくお話や、日々研鑽を積み重ねていらっしゃることに ついてのお話を伺うのも楽しみです。

毎回豊富な話題であつという間に2時間が過ぎていきます。

昨年末の定例会はいつもの会場ではなく、忘年会としてレストランに場所を変えて、テーブルを囲みながらいつもと違う雰囲気と話題で楽しくお食事を頂きました。

これからもこのようなイベントを入れながら、皆で集まる時間を大切にしたいと思っております。

中学生～大学生の高次脳機能障害当事者と家族の会 「ハイリハジュニア」 代表:穴澤芳子

2012年2月に高次脳機能障害を持つ、中学生以上を対象としたハイリハジュニア家族会が発足し、今年で4年目になります。活動月は偶数月の年6回。他に年2回ほど当事者の母を対象としたマザーズランチ会を開いています。

昨年は JAL 工場見学・ディズニーシー・ナイトバスツアー・東京スカイツリー・忘年会・自分達の未来について仲間と語る・ボーリング & 水上バスなどの例会がありました。活動場所は毎年2月に当事者が活動したいとの希望を個々に意見をだしてもらいその後、臨床心理士の太田令子先生誘導の下、当事者が自分の将来について仲間の前で自分の意見を述べる……。毎回、保護者も楽しみ & 期待している例会の一つです。「自分のプライベートなことは親に知って欲しくない。」と思春期らしい感想を当事者全員が話していた事に対し、親自身子供の成長に歓心を持たたのでは?と感じています。

現在のメンバーは21家族。賑やかな家族会になってきました。またボランティアの方や支援スタッフの方達の力添えもあり、メンバー同士の交流も盛んです。ガールズトークがお茶目で可愛い。ボーイズは……。癒しキャラ・クールキャラ・弄られキャラ。時には自分と他人を比べすぎて落ち込んだり、プチギレとありますが、そんな行動もジュニア例会ではありありな風景です。そして、保護者も共通の悩みを持ちながら情報共有しながら自然とメンバー同士のアドバイスが出来る・・・ジュニア保護者の素晴らしい長所です。

臨床心理士太田令子先生・ST 鈴木勉先生・支援して下さる方達に支えていただきながら当事者と保護者が楽しめる家族会でありたいと思います。興味のある方はどうぞハイリハジュニアへ遊びにいらしてください。

(株)言語生活サポートセンター 代表:園田尚美

(株)言語生活サポートセンターは介護保険施設ですが、言語リハビリのみの機能訓練事業所として運営しています。言語訓練の形態として、個別訓練と並行して社会参加上不可欠の集団の中でのコミュニケーション訓練を行います。

介護保険対象第1号、第2号被保険者への生活言語訓練は勿論、介護保険対象外の方には実費での訓練を提供しています。訓練時間は午前・午後2部制で3時間15分ずつ、10名を限度、その中での個人訓練はすべての利

用者お一人お一人に 30 分間個別に提供されています。

機能訓練事業所開設の根拠は、医療機関で改善が予想される場合には期間制限を設けず、失語症リハビリが提供されるべきであるとの確信からです。

医療保険制度から介護保険制度にサービスの提供体制が移った場合にも、機能改善が続いている方々にはリハビリが提供されるべきですが、現在わが国には、失語症者の言語リハビリを専門に提供施設は 20 施設にも満たず、ニーズに全く足りていません。既存の施設だけでは社会的リハビリを必要としている失語症当事者の日常生活言語のリハビリテーションには十分に対応していないといえます。

言語リハビリテーションを必要としている方々は、介護保険対象者の高齢者だけではなく、特定疾患でも介護保険に該当しない若年層の方や、外傷その他の起因で失語症を持つ介護保険 2 号被保険者に該当しない方も多数いる現状です。

現在、通所利用者の平均年齢 62 歳となっており、一般の介護保険デイサービスとは、年齢層も異なり、言語訓練の需要がいかに低年齢層の失語症者に求められているかがわかります。言語訓練(口腔機能ケア含む)専門家の言語聴覚士を 5 名(常勤 4 名非常勤 1 名)が所属しております。通常言語訓練以外にも、訪問言語聴覚士向け講座、失語症なんでも相談会、家族講習会・講演会なども適宜開催しております。

NPO 法人 VIVID(ヴィヴィ) 代表:池田敦子

息子が遷延性意識障害・体幹四肢麻痺となり 10 年在宅生活を続けていたころ、医療行為を伴う中途障害者を受け入れるデイサービスさえありませんでした。息子は急逝しましたが、自分が困ったことは他にも困っている人がいるに違いないと、2006 年からグループで活動を始め、サークルエコーや調布ドリームなどを見学、その後 TKK の運営会議を見学した際、当事者や家族会を支援する団体があってもよいのではないかと入会を誘って下さり、東京高次脳機能障害協議会に参加しました。

さっそく TKK 加盟団体の方々の障害や生活の様子を社会に知らせたいと「高次脳機能障害者生活実態調査」アンケートを実施、その後、ご了解いただいた 25 人の方々の聞き取り調査を行い、さらに 6 年後に再度同じ方の調査をしました。最終的には、調査にご協力いただいた方々にフィードバックする意味で内容を冊子にまとめ、2015 年にお一人ずつに記録をお返しできました。合わせて TKK 会員団体にもお送りしご報告したところです。高次脳機能障害はゆっくり回復に向かい、数年前には想像すらできなかった今を、それぞれの人生として受け止め、日々を大切に歩まれているご様子に勇気をいただきました。

VIVID は、高次脳機能障害のある方の社会参加を応援する「居場所」としてミニデイサービスを 2008 年から現在まで運営しています。「高次脳機能障害なんでも相談」、「普及啓発セミナー」も続けていますが、昨年度から新に「出張相談会」を家族会と一緒に始めています。現在、これらの活動を総動員して、新宿区内だけでなく近隣の当事者・家族の方々にも使っていただけるよう、プロジェクトを立ち上げ新規事業を検討しているところです。

以上